

わたしのこどもの頃は、これまでの園府村を圃比左村といった時代です。その当時の小学校は、尋常小学校といひ、先生一人で四学級全校の生徒を保持

に、校長も兼ねていました。最初に習ったのは「高い山、低き谷」でした。

学校から帰り縁に飛び上ったとき「馬之助チョット待て」と、呼びとめられ、なんのこ

とかと立っている、雑布を手に出してきた祖母が、わたしの足をきれいにふいてくれつつ「座敷へあがるときは、足を

ふいてあがらなければならぬ……」と、こんこんと注意されたものです。

それからというものは、くる日もくる日も同じことを繰り返かえしがつづき、とうとうそれがくせづいて、座敷へあがるときは足をふいてあがらなければならぬ習慣となり、以來習慣とは恐ろしいもので、雑布が見えないときは雑布

### 知ってください

### 少年補導センターを

を採すようになりました。現在わたしの家には、あがり端に「足をふいてあがる」と書いてありますが、大人になるとどうしても実行力が弱いようです。しかし、わたしは足をふかないとあがる気持ちにはなれません。これからせめて曾孫には、しつづたいと思つていますが、いかがになりますことやら、……

補導センターといひますと、非行児のみを対象としているかのようには考へておられる方が多いと思ひますが、それはかりではなく、すべての子どもをより幸にしようとしておられるのであります。子どもの健全育成に、家庭環境が大切であることは申すまでもな

く、せつかく良く育てようとして、その家庭を取り巻く地域社会全体がよくないとなんにもなりません。家族のものも、社会のおとなたちも「あの子もこの子もみんなの子」ということが単なる知識としてでなく、実際の行動のうえにあ

いままでのわたしの体験からみると、なにごととも小さいときの教育、しつづきも大切であることを痛感するものです。あえて申しあげるほどのことではありませんが、心に浮んだことでも参考になればと筆をとった次第です。

小笠原 馬之助  
(明治15年生れ)

### 広報に問う

過日くばられた広報のなかに、国保税上げ反対協議会ニュースなるものがあり込まれていました。市の広報委員会が配布したものでしょうか、お答えねがいませす。(国分生)

### 広報から

そのようなニュースを広報とともに配布するように指示したことはありません。

もとより広報におり込み類の取りあつかいはしてありません。

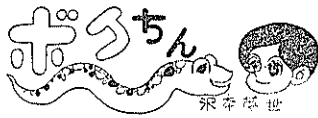
### 原稿募集

短歌、俳句、詩、コント、あなたのご意見など、お寄せ下さい投稿は六百字以内

▽広報への原稿や、ご要望は委員または、協力員にお申しでられても結構です。

- 〔委員〕 山本尚一 後免町
- 藤本茂樹 田村、田中隆夫 浜
- 改田、山本知一 久礼田、東村
- 達夫 立田
- 〔協力員〕 門田真一 比江、田岡
- 信雄 白木谷

(事務局) 沢本英世 里改田



無料 法律 人権相談所  
毎月20日 中町公民館

敬 治 芳 照	長 直 弥	橋 本 田 交	高 島 浜 入	上 野 田 岩 浜 村	人 権 擁 護 委 員 会
瓶 前 田					